

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2022

事業所番号	2690100173		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都北山の家 1号館		
所在地	京都府京都市北区鷹峯光悦町32-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町		
訪問調査日	令和4年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が笑顔で楽しく元気に過ごして頂けるように業務に取り組んでいます。ほぼ毎月、行事を開催したり、現在は自粛ですが地域行事に参加させて頂いたり地域との交流も行ってまいります。
入居者様の体調に変化が見られるときには速やかに訪問医と連携を取っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市北部の有名な観光地b 北山を背景に浩悦寺や源光庵などがあり 季節を問わず観光の人が散策している地域にあり、2ユニットのグループホーム 開設9年になる。介護職として さまざまな事業所で経験をつんできてきた職員がそれぞれの経験を活かして コロナ禍での利用者の暮らしを支援している。近くへの散歩 歌を歌う おいしいものをみんなで作って食べる などに取り組んでいる。認知症ステージの様々な利用者のそれぞれにあわせて日々の暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人に寄り添うことで、不安なく安心して過ごして頂くことに努め、笑顔が絶えない暖かい雰囲気づくりを目指していく。 (H27制定)	グループホームの理念は「利用者一人ひとりに寄り添うことで、不安なく安心して過ごして頂くことに努め、笑顔が絶えない暖かい雰囲気づくりを目指していく。」7年前に当時の管理者が作成している。理念は利用者、家族に広報し職員研修をしている。年度ごとに確認している。理念の実践のために職員は利用者と常にコミュニケーションをとり、一人でポツンとしていることがないように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は自粛中であるが、地域での夏祭り、運動会、サロン、講習会等に参加させて頂いている。	ホームの近くには住居や神社が多く静かである。利用者は毎日散歩に出かけ四季の風景を楽しんでいる。近くには郵便局、小学校、幼稚園、保育園、スーパー、理美容院がある。自治会に加入し回覧板により地域のいろいろな情報を得ている。地域の人に対して相談窓口を開設している。地域の行事に参加していない。日用品や食材は地域の店を利用している。地域の事業所が運営推進会議に参加しており、地域連携が進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は自粛中であるが、サロンや講習会にて他施設、自治会、地域住民の方々と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面送付にて実施しているが、偶数月の第4木曜日に実施している。	民生委員、原谷地域包括センター、介護老人保健施設がくさい、鷹峯社会福祉協議会、グループホームやすらぎが委員となり、隔月に開催し、議事録を残している。現在はホームから委員に書面で報告し、書面で意見をもらっている。ホームからの報告は利用状況、運営や行事、事故・ヒヤリハット、研修等である。「コロナ禍でも家族が希望すれば、利用者と面会できるように工夫している」、「事業所で実施している研修や講座は優れたないようですね」等を貰って励まされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北区支援課の担当者との連絡を取り合っている。	市には必要な報告を欠かさず連携を保っている。地域ケア会議に参加し、認知症ネットワークに協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の規定に則り身体拘束ゼロの取り組みを実施している。	身体拘束に関する職員研修は年に4回実施している。職員はスピーチロックや止むを得ず拘束する場合の3要件を認識している。身体拘束の事例はない。エレベーターはロックしている。玄関ドア、非常口等、日中は施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月実施している社内研修にて学ぶ機会を設け防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービスを利用されている入居者様もいるため業務の中で制度について係ることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には新たな契約書を作成、説明と交付を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話等、意見要望があれば運営に反映させている。	現在家族の面会は玄関のガラスごしか、オンラインで行っている。家族から直接の希望があれば短時間の面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員からの意見や提案を聞けるように心がけ、運営に反映できるようにしている。	職員会議は必要な時のみ実施している。最近では実施していない。業務や利用者ケアについての意見は日常的に話しあっている。管理者はパワハラに注意している。法人は年間プログラムのもと計画的に職員研修をしている。	グループホームという組織は井の中の蛙にならないため、他の法人のグループホームと交流したり学びあったりすることが欠かせない。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則り業務を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にて資格取得等を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は自粛中ではあるが、地域の勉強会等に参加しサービスの質の向上を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接にて聞き取りを行い、安心して暮らしていただけるような関係、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面接にて話し合うことにより信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば福祉用具等のサービスと調整を行い支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在は自粛のためフロア間の交流は控えているが、同フロア入居者との交流会や働きかけを行い、人間関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は自肅のため自動ドア越しでの面会をお願いしている。また、電話や手紙のやり取り等の環境を提供できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は自肅のため自動ドア越しでの面会をお願いしている。また、電話や手紙のやり取り等の環境を提供できるよう努めている。	利用者のかつての友人との手紙のやり取りを支援している。また、利用者を同行して受診したときに以前に住んでいた利用者の家に寄ることがある。	長い人生を生きてきた後、利用者は今グループホームで人生の最後の日々を暮らしている。子どもの頃仲良かった人、近所に住んでいた人、学校や職場の友達等は今どうしているか、もう一度会いたい。 生まれた家、先祖の墓、結婚して住んでいた家にもう一度行ってみたい。 毎年見ていた祭り、よく見に行った桜の名所にもう一度行きたい。 このようにもう一度会いたい人、行きたい所へ同行することが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立してしまうことが無いように声掛けを行い、入居者同士が関わり合う時間が持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があれば、入居中と変わりなく相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接にて聞き取りを行い、ケアプランに反映、検討している。	契約時や入居時に、管理者、ケアマネ等が利用者、家族と面談しグループホームの説明をし、グループホームでどんな暮らしをしたいのかという意向を聞いている。利用者の介護、医療の情報を収集するとともに、利用者の生活歴を聴取し、記録している。利用者の生活歴は出身地一岡山、三重など、3人姉妹の長女、末子など子供時代、新聞配達、呉服、パーラーなど生家の仕事、利用者の生活歴の情報は非常に少ない。	長い人生を送ってきた利用者の暮らしをグループホームで支援するためには、利用者を深く理解することが求められる。そのためには利用者の生活歴、特に出身地、生家のこと、子ども時代のこと等の情報が必要である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに反映させ、把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや経過記録により職員が周知できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いに基づいて介護計画の作成ができている。	ケアマネ、計画作成担当者が利用者のアセスメントをし介護計画を作成している。介護計画は、利用者、家族、医師、職員等の意見を踏まえている。 介護計画は身体介護、くらしの楽しみ、認知症不穏時の対応等の項目を入れている。介護計画の実施記録は職員が書いている。	介護計画の実施記録は、職員が実施したこと、発言したことを書いている。その介護に対する利用者の反応、すなわち利用者の表情、行動、発言は書かれていない。介護計画の評価の根拠にならない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて情報を共有し、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々にあったプランを取り入れ、実施できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は自粛しているが、地域資源に密着し楽しく生活が送れるよう、地域の活動に積極的に参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の往診にて支援を受けている。	協力医療機関から毎月医師が往診に来て、利用者のかかりつけ医になっている。認知症についての往診もしている。歯科は訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも変化があれば主治医に連絡をとり連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には常に情報交換を行い、病院関係者と信頼関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係各所と連絡調整を行い、十分な支援ができるよう努めている。	利用者の重度化や終末についての対応の方針は「看取りに対応しない」である。利用者、家族には説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人のマニュアルや社内研修にて学ぶように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施すると共に自治体への報告を行っている。鷹峯小学校が避難所となっている。	火災だけでなく、地震、洪水、台風の避難訓練を年2回実施している。水や食料の備蓄を準備している。ハザードマップを掲示しており、職員は危険個所を把握している。災害時における法人内相互協力体制の規定はない。また、地域の人に災害時の協力を依頼していない。	災害時における法人内相互協力体制の確認、地域の人に災害時の協力を依頼すること、以上の2点が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めながらも研修で学んだ丁寧な声掛けと対応を心がけるよう努めている。	利用者への対応や言葉遣いについての基本方針は「人生の大先輩であることを念頭に置き、丁寧語で対応する」である。職員研修をしている。職員には「命令口調、ちゃんづけで呼ぶ、大きい声を出す、乱暴な言葉」を禁止している。 くらしでは利用者の意向を大切にし、常に利用者に聞いている。 飲み物を選んでもらうために、お茶、麦茶、ポカリスエット、コーヒー、紅茶等を準備している。 自分で化粧する利用者がある。髪型は訪問美容を利用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定できる様、意思確認の声掛けと対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人に合わせた身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては困難なことが多いが、準備・片付けに関しては毎食時に協力していただいている。嗜好調査にて希望を伺っています。	昼食と夕食は宅配業者タイヘイから購入している。カロリー値、栄養バランスを点検済み、季節感のある食事である。朝食は夜勤者が手作りしている。食材は職員が買いに行っている。	コロナ禍のため家族との面会はなく、散歩やドライブの楽しみも少なく、ホーム内に閉じ込められている利用者にとって、一日の暮らしの中で食事が特に楽しみである。外食は無理でもテイクアウトや食卓でみんなで作る料理—みんなで一緒に作る焼きそば、ケーキの飾り付け等、食事にかかわる楽しみを企画することが求められる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食事を提供し、個々に合わせた形態等に留意して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを実施していただき、夜間は入れ歯を殺菌消毒し保管していただいている。口腔衛生について歯科医師より助言をいただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターン、習慣に合わせて排泄の支援を行えるよう努めている。	数人の利用者が排泄の自立をしており、他の人は職員が声掛けでトイレ誘導をしている。散歩や体操、水分補給などで自然排便を支援しているが、ほとんどの利用者が下剤を服用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談すると共に食事面での工夫を行うなど便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自のシャンプーを使用したり、熱めのお湯等、可能な限り個々の希望に添えるよう支援している。	利用者の入浴は毎週2回支援している。入りたい日や入りたい時間、湯の温度、介助の職員に対する希望等は利用者の希望に添うようになっている。 入浴拒否の利用者には家族の協力を依頼するなど工夫している。 自分用のシャンプーを持っている利用者がある。季節にはゆず湯をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活に合わせて昼寝していただいたり、夜間は冷暖房を使用する等、快適に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬剤情報により確認を行うように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や希望に添えるようにレクリエーション等の支援に努めている。作品作り等、作業を分担したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は自粛のため地域の行事等や外出レクには参加できていないが、雨天や雪の日以外は散歩を実施している。近隣の神社等、晴日は毎日実施しています。	気候が良く天気の好い日には利用者は毎日散歩している。ドライブはコロナ以前は花見、紅葉狩り、祇園祭、植物園等へ年5回出かけていた。利用者の個別の外出希望に対しては現在に対応していない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失予防のため、金庫にて管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話にて支援できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品を掲示する等の工夫、冷暖房の調整、カーテンの使用等、少しでも快適に過ごして頂けるように努めている。	利用者の居間兼食堂(ホール)はゆったりと広く、テレビ、ソファ等をおいている。壁には職員が利用者と一緒に作成した、桜、ひな祭り、こいのぼり等の季節の飾りを貼っている。ホームの敷地内には花壇があり、バラ、テッセン、たちあおい、パンジー等をうえている。野菜も育てて食卓で楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置等の工夫をし、必要があれば席替えを行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りの物や好きなものを持参していただき、居心地よく過ごせる空間を作れるよう努めている。	居室は洋間、電動ベッド、エアコン、カーテン、マットレス、クローゼット等はホームが備えている。 利用者は寝具、テレビ、衣類、日用品 文具類 筆記具等 を持ち込んで自分の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりに努めている。		